

信淨寺だより

63号 二〇一五年十月

淨土を想う

今年の夏もたいへん暑かつたですね。年々気温が高くなっています。少しでも涼しい場所はないかと考えてしまいます。

最近、ときどき頭に浮ぶのですが、お経の中に冰の世界が出てくるところがあります。『仏説觀無量寿經』というお経の中に釈尊が極樂淨土を見たいと願う韋提希夫人のために、まず夕日が沈むのを見て淨土を見て、次に水を思い描いて淨土を見ることを勧めます。

「水の澄みきつたようすをはつきり心に思い描き、心を乱さないようにするのである。水を思い描きおわつたなら、次にその水が水となつたようすを想うがよい。……」

父の頻婆娑羅王を捕らえて牢獄に閉じ込め、秘かに食事を運んでいた母も殺そうとします。その苦しみの中で釈尊に救いを求める極樂淨土に生まれることを願つた夫人に説かれたお話です。

このお説法は、韋提希夫人だけではなく、すべての人に向けてのお話です。現代に住む私たちにも必要なお説法なのです。最初の夕日を見て淨土を想い描くのは、日想觀といつて、春、秋に真西に沈む夕日を見て淨土を想うのが、お彼岸の日です。彼岸とは淨土のことです。日頃お淨土を想うことを見がちな私たちにせめてこの日は考えましょうという日なんです。

日想觀から始まつて淨土の環境を思い描き、その後そこにいらっしゃる菩薩、仏（阿弥陀仏）を見ていくのです。これが十三觀まで続きます。これを精神を統一してすべてを見ていく（觀想）方法もありますが、われわれ普通の人間にはできそうもありません。私たちには、お淨土を想うご縁（きっかけ）になれば、日頃出逢うもろもろのことからお淨土とは何かを考えていきたいと思います。

ガダ国の王妃。子供である王子、阿闍世^{あじやせ}が悪友にそそのかされて

極楽、地獄といいますが、普通は死んでから先の話だと思っています。またそんなものがあるのかとも考えます。しかし地獄とはこの世界で起こっていること、戦争など。飢えに苦しむ人たち、相手をののしりあう人たち。仏教では、地獄、餓鬼、畜生の世界と説かれています。地獄は死ぬときに裁判で（閻魔大王など）決まると考えますが、今生きているこの世界で人間が自ら作って、墮ちていくのではないでしょうか。知らず知らずのうちに私自身が作ってしまう、皆が仲良く平和に暮らせるにはどんな世界がいいのか、そんなことも考えてみませんか。

親鸞聖人はそんな私たちに、仏法に遇うことで自分の中に潜む悪の心を知らされ、難しい行（ぎょう）などできない者のための「悪人正機」（悪人こそが救われる）を示されました。悪人正機というのは、まずそんなあなたを救いたいと願われた阿弥陀仏の願い（本願）のことです。

お経にはいろいろな方法で浄土が説かれていますが、「私にとつてお浄土とは」 まず考えてみませんか。

『仏説觀無量壽經』 心をしづめ、思いをこらして、極楽淨土のすばらしいありますと、そこにいます万徳をそなえられた無量壽仏のお姿とその救済のはたらきを心に思い描き、その徳をわが身に体得しようとする「觀仏」の行が説かれている「經」の意味で名づけられました。

帰敬式のご案内：本願寺岐阜別院にて、帰敬式（おかみそり）を受け法名をいただくが行われます。まだ受けられていない方は、是非いかがでしょうか。

日 時 十二月五日 午後六時執行（参考集 午後五時三〇分）

帰敬式後、七時からの報恩講初夜法要にご参拝ください

費 用 成人 一万二千円 未成年 七千円

申し込み締め切り 十月二十日までに信淨寺へお願ひします。